

# 九島のソフトツーリズム

1年2組 崎須賀あさひ 1年2組 田邑 萌花  
1年2組 西川 さくら 1年2組 松浦明佳里  
指導者 井上 真介 西岡めぐみ 松田 彩 渡部 陽子

## 1 課題設定の理由

2016年春、九島大橋（写真1）が開通し、生活の利便性が高まることはもちろんのこと、交通面や観光面で大きな影響をもたらすと言われている。現在、「九島地区地域作り協議会」が中心となって、島一周ポタリングやウォーキング大会・島の市といったイベント開催、移住者の促進事業など、産業振興や観光振興に取り組んでいる。九島大橋が地域にもたらすプラスの面、マイナスの面に着目し、地域の活性化に向けてどのように取り組んでいくことができるかを考案したいと考え、この課題を設定した。



写真1 九島大橋

## 2 仮説

- (1) 九島大橋が開通することで、島の暮らし（交通・教育・医療・環境など）にメリットとデメリットがあるのではないか。
- (2) 陸続きとなることで、島内外の人の出入りの機会が増えるばかりでなく、観光者数が増加することで、交流の機会も増え、地域の産業や観光が活性化するのではないか。

## 3 実験・研究の方法

- (1) 現地訪問
  - ア 九島地区地域作り協議会の萬家さんへのインタビュー
  - イ 九島くるりんウォーク（写真2）参加者へのアンケートの実施
- (2) 統計・調査
  - ア 九島地区人口推移の統計調査（宇和島市ホームページ）
  - イ 空き屋数の調査



写真2 九島くるりんウォーク

## 4 結果と考察

- (1) インタビューの内容と分析  
萬家さんの意見の概要をまとめると以下の通りであり、九島大橋ができたことによるメリットとデメリットを資料1にまとめた。
  - ・20年程前からの願いが叶って嬉しい。 ・交通の不便さからの解放
  - ・耐震化工事で予算が10億程多く掛かった。 ・人との交流が増え、喜ばしい。
  - ・もっと早く建設されていたら、島の子どもの人口も今以上に多かったと思う。
  - ・人口の減少や、空き家の増加も多少防げたと思う。
  - ・島ならではのイベントが減るのではないかと不安である。
- (2) 九島くるりんウォーク参加者アンケート結果と分析  
参加者200人のうち、アンケート回答者は66人だった。参加者の年代は60代以上が最も多い。他の年代はほぼ同じ割合であった（図1）。愛媛県外からの参加者は10%未満であり、参加者の41%は宇和島市から来ていることが分かった。また、「どのようなイベントがあればよいか」という項目には、九島の魚がもっと食べたい、地域食を用いたイベントがあるとよい、飲食店・宿泊所・駐車場がほしいなどの意見があった。
- (3) 九島地区人口推移の統計調査・空き家  
2016年度の人口の推移（図2）を見てみると、開通による人口の変化は見られなかった。また、空き家の件数を調べてみると、本九島38件、百ノ浦19件、蛤13件と多いことが分かった。

た。これまで移住促進には取り組んでいなかったため、発進力や受け入れ体制が整っていないという課題もあるが、平成 27 年 8 月に夫婦一世帯が移住されているという。今後は九島地区地域作り協議会が窓口となり、移住事業も進んでいくようである。九島地域おこし協力隊への参加募集などをきっかけとして、空き家の貸家、売買などが進んでいくことが望まれる。

#### 資料 1 九島大橋ができたことによるメリットとデメリット（萬家さんの意見）

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> <li>・救急車がすぐ来るなど、緊急時の対応が早くなった。</li> <li>・船の出発時刻に合わせて行動しなくてもよくなった。</li> <li>・建設業者の行き来も自由になったので、荷物の運搬などが早く行われ、効率よく作業を進められるようになった。島から離れて住んでいる身内の人たちに気軽に会えるようになった。</li> <li>・観光客が増えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通量の増加により、交通事故の起こる可能性が多くなる。</li> <li>・荷物が片づけられていない空き家の増加。</li> <li>・診療所がなくなり、車を持っていない体の不自由なお年寄りの方が不便に感じている。</li> <li>・九島小学校が廃校になる。</li> </ul>

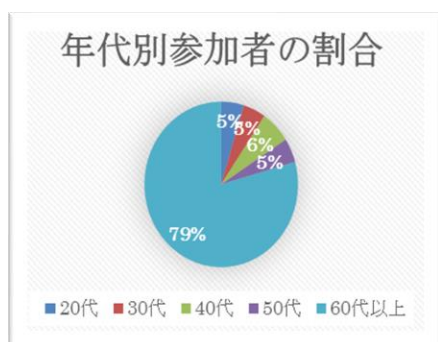


図 1 年齢別参加者の割合

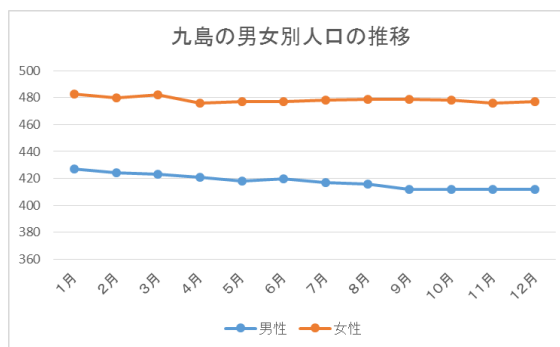


図 2 2016 年 1 月～12 月までの人口推移  
(宇和島市ホームページより引用)

## 5 まとめと今後の課題

九島大橋が開通したことによるメリットは多く挙げられが、その一方で、そこから生まれるデメリットや問題点は少いように感じられた。橋の開通は、九島の日々の暮らしに影響を与えているものの、人口の推移や産業・観光振興には特に変化が見受けられなかった。

今回の研究から提案できることとして、60 代以上の方々（島内外の高齢者）を対象として健康増進や高齢者福祉の視点からのツーリズムのあり方を模索すること、また、年齢層を問わず要望の多かった地域食を用いたイベント、癒しの九島をアピールイベントなどの実施を企画すること、空き家や廃校となる九島小学校の校舎を有効活用して、宿泊所・飲食店・駐車場に利用すること、などが挙げられる。今後は、上記に挙げた提案を具体的に検討し、島民主体の地域活性化の取組の中で、「九島らしさ」をいかに発信していくことができるかについて、考案していく必要があると考えている。

### 謝辞

今回私たちの課題研究に御協力いただいた萬家様、九島くるりんウォークアンケート参加者の皆様、心からお礼申し上げます。今後の課題を追求し、これからの研究に生かしていこうと思います。本当にありがとうございました。

### 参考文献

- ・ KAJIMA MONTHLY REPORT DIGEST 2014 07 [http://www.kajima.co.jp/news/digest/jul\\_2014/site/index-j.html](http://www.kajima.co.jp/news/digest/jul_2014/site/index-j.html)
- ・ しゃかいか [https://www.shakaika.jp/blog/17044/ferrykushima\\_uwajima/](https://www.shakaika.jp/blog/17044/ferrykushima_uwajima/)
- ・ 『きずな 秋号』（2015）エフオート社 vol.33